

## <経済>

### ○香港

#### 「債券通」の導入決定

香港金融管理局と中国人民銀行の両当局は、香港と中国本土間の債券相互取引「債券通」（ボンド・コネクト）の導入を正式決定しました。導入当初は、香港を経由した本土債券市場への投資がメインとなる予定ですが、債券通のメリットは、海外投資家が中国本土の銀行間債券市場を通じて債券に投資する方法に比べて、審査の簡略化や時間の短縮が可能となる点で、人民元資産を増やすきっかけになると期待されています。

現状の中国本土の債券市場は急拡大を続けており、規模は 10 年前の約 5 倍、世界第 3 位の市場規模にまで成長しています。2016 年末時点での内訳は、政府債が約 50%（国債 26%、地方債 24%）、金融債が 30%、企業債が 10%、他 10%と、政府債が半数を占めるものの、金融債、企業債の割合も上昇傾向にあります。しかし、海外債券に投資する際のベンチマークに採用されていないことなどから、海外投資家の保有比率は極端に低く、1%台に留まっています。

今回の債券通の導入で海外の債券インデックス（指標）に組み込まれれば、海外投資家の保有比率は約 5 年で最大 10%程度高まると見込まれています。ただし、海外投資家は、中国本土企業への投資経験が少ないことや、中国本土企業に対する根強い警戒感などから、当初の投資対象銘柄は信用力の高い政府債が中心になると考えられており、中国本土全体に投資が行き渡るには、ある程度の時間がかかると予想されています。

現時点では、中国本土の債券市場は、日本や海外の投資家にとっては投資対象になりにくい市場ですが、債券市場の規模や中国市場の重要性を勘案すると、今後は決して無視できない存在、避けては通れない市場になることでしょう。国際通貨基金が中国人民元を特別引出権（SDR）の構成通貨に加えるなど中国が国際的な存在感を強めつつある中、債券通は中国の更なるグローバル化を推し進める可能性を秘めています。



【香港金融管理局のオフィスは、香港島一の高さを誇る超高層ビル「International Finance Centre」に位置する。】

## <社会>

### ○マカオ

#### 「港珠澳大橋」が年内に完成予定

年内に香港と広東省（珠海市）、マカオが「港珠澳大橋」（ホンコン・ジュハイ・マカオ・ブリッジ）で結ばれる見込みです。完成すれば、海底トンネルを含めた全長約 55 キロの世界最長の海上橋となります。

この海上橋の最初の計画は 1980 年代に提案されたと言われています。しかし、多額の費用がかかる上、英国の統治下にあった香港自治政府が中国本土との物理的距離が近くなることを恐れ、計画は中止されました。その後、1997 年に香港が中国に返還されると再び海上橋建設の機運が高まり、2009 年に着工開始、約 2 兆円とされる総工費と約 8 年の歳月を要して、ようやく完成の時期が迫っています。

現在、香港からマカオへ行くための最もポピュラーな手段は、高速船（約 1 時間）です。



陸路もありますが、海沿いを回り道する必要があり（約 4 時間）現実的ではありません。それがこの海上橋の完成により車で約 30 分の距離に短縮されます。日本で言えば神奈川県と千葉県を結ぶ東京湾アクアラインに似たような橋とイメージしていただければ、わかりやすいでしょうか。

中国に返還された後も高度な自治が認められているカジノの街「マカオ」、国際金融都市「香港」、そして自動車を代表とする製造業の街「広東省」。経済の成長鈍化が叫ばれる中、この 3 都市の距離が縮まることで、経済の活性化が期待されています。習近平国家主席は、香港と広東省、マカオの経済連携を強める「大湾区構想」を打ち出しており、今回の海上橋の完成が、現代版シルクロード経済圏構想の一带一路の「路」を担う試金石となりそうです。

期待が高まる一方で香港では、中国政府の政治的圧力の強化による香港市民の反発（雨傘運動や銅鑼灣書店問題等）が顕在化するなど、一国二制度が揺らぎつつあり、今回の海上橋の完成が、更なる中国政府による干渉強化に繋がるのではないかと警戒感を示す人々もいます。加えて海上橋建設による海洋環境の悪化、大気汚染深刻化の懸念や、そもそも海上橋建設は経済発展には繋がらない等のネガティブな意見も少なくないようです。

## 香港・広東省の見本市予定（2017年6月～2017年8月）

### 香港

見本市名	場所	期間
第 87 回香港ウェディング展	HKCEC	6/2～6/4
HK Beauty & Fitness Expo 2017	HKCEC	6/2～6/4
第 31 回国際旅行展	HKCEC	6/15～6/18
香港宝石&貴金属フェア	HKCEC	6/22～6/25
香港ブックフェア 2017	HKCEC	7/19～7/25
香港 Food Expo 2017	HKCEC	8/17～8/21
Natural & Organic Products Asia	HKCEC	8/30～9/1

※ HKCEC : 香港コンベンション&エキシビジョン・センター

### 広東省

見本市名	場所	期間
第 15 回国際自動車部品展	PWTC	6/2～6/4
広州国際照明展	琶洲会場	6/9～6/12
広州国際電気工学・建築展	琶洲会場	6/9～6/12
第 17 回インポートドリンク&フード展	琶洲会場	6/16～6/18
第 18 回オーガニックフード展	琶洲会場	6/16～6/18
深圳工業オートメーション展	SZCEC	6/28～6/30
第 19 回中国国際建築装飾展	琶洲会場	7/8～7/11
広州国際クロスボーダーEコマース&グッズ展	琶洲会場	7/21～7/23
広州国際太陽光発電フェア	琶洲会場	8/16～8/18
中国ガラス製品、ガラス加工機械関連フェア	琶洲会場	8/28～8/30

※PWTC : 保利世界貿易中心（広州）

※琶洲会場 : 中国出口商品交易会琶洲展示館（広州）

※SZCEC : 深圳コンベンション&エキシビジョン・センター

上記の見本市は予定が変更になる場合もありますのでご留意下さい。

## ★トピックスレポート（香港人スタッフ便り）★

### 香港の人口統計

2016 年の香港の人口統計によると、永住権を有する人が 7,116,829 人、駐在員など一時的な居住者が 219,756 人、合計で 7,336,585 人と、合計値で前年比+0.6%となりました。人口の出身国別内訳は、中国人が 92.3%（うち 90.6%が香港人）、フィリピン人が 2.5%、インドネシア人が 2.2%、日本人が 0.9%、英国人が 0.5%の比率となっています。

#### 【地域別、年代別の人口構成】

	0 歳～14 歳	15 歳～24 歳	25 歳～44 歳	45 歳～64 歳	65 歳以上
香港島	10.6%	9.9%	30.9%	32.0%	16.5%
九龍島	11.3%	10.8%	30.0%	31.5%	16.3%
新界地区	11.5%	10.9%	30.4%	31.8%	15.4%
その他	11.3%	10.7%	30.4%	31.7%	15.9%

永住権を有する人の出生地を見ると、61%が香港生まれ、31%が中国本土、マカオ、台湾生まれで、残り 8%が他の国で生まれています。また、永住者と一時的な居住者合計での男女の比率は、女性 1,000 人（含む外国人ヘルパー）に対して男性 925 人と、女性に対する男性の比率が 10 年間で約 4%低下しています。

近年は香港人女性が、中国本土の男性と結婚するケースも増えつつあります。中国本土の人と国際結婚する比率は、過去 10 年で 5 人に 1 人から 3 人に 1 人の割合にまで増加しています。要因として、大学や職場等での中国本土の人と香港ローカルの人との出会いの場が多くなっていること等が挙げられます。実際、2015 年に結婚した 51,000 カップルの内、約 35%を国際結婚が占めました。

全人口の平均年齢は、39.6 歳から 43.4 歳に上昇し、65 歳以上が占める割合も 12%から 16%に上昇しています。これは、現役世代 16 人で高齢者 1 人を支えることを意味します。現在、50 歳～59 歳の層が最も多く、20 年後には高齢者が人口の 3 割を占めると予想されています。医療費負担等の問題は山積みですが、高齢化社会の到来は香港だけでなく先進国を中心とした全世界の共通問題であり、将来の世代のためにも、早急に対策を打っていくべきだと考えます。